

EU Indicators

欧州経済指標コメント：1-3月期ユーロ圏GDP速報値

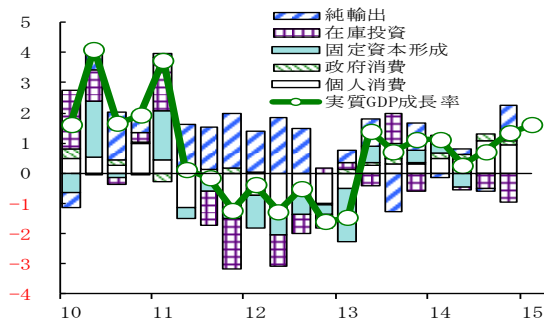
発表日：2015年5月14日(木)

～先進国で最も高成長の栄冠はユーロ圏に～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

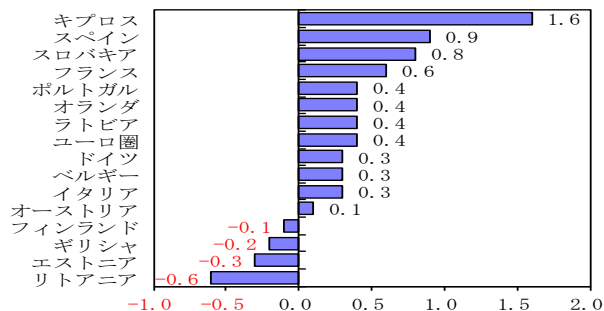
- 13日に発表された1-3月期のユーロ圏の実質GDP成長率の速報値は前期比+0.4%、同年率+1.6%と前期（同+0.3%、年率+1.4%）から加速し、2011年1-3月期（同+0.9%、年率+3.7%）以来の高い伸びを記録した。国別の内訳は、ギリシャ（同▲0.4%→同▲0.2%）やフィンランド（同▲0.2%→同▲0.1%）が前期に次いでマイナス成長を記録したほか、ドイツ（同+0.7%→同+0.3%）やオランダ（同+0.8%→同+0.4%）で前期より成長が鈍化したものの、フランス（同ゼロ%→同+0.6%）、イタリア（同ゼロ%→同+0.3%）、スペイン（同+0.7%→同+0.9%）などで成長が加速した。
- 需要項目別の内訳は6月初旬の改定値で公表。既報の国別結果からは、ドイツで個人消費や政府消費が成長を牽引し、設備投資や建設投資も増加したものの、輸入の伸びが輸出を上回ったために外需が回復の足を引っ張った。フランスも同様に輸入増加から外需がマイナス寄与となったものの、個人消費が大きく増加して成長を牽引したほか、政府消費、設備投資、在庫投資など内需項目が揃って改善。
- 1-3月期にかけてのグローバルな景気の足踏みが輸出の鈍化につながったものの、ユーロ安への転換を支えに輸出が増加基調を維持しているほか、原油安による実質購買力の改善が内需の回復を牽引し、昨年来の金融緩和の効果が徐々に顕在化していることも成長加速につながった。茲許の長期金利の反転上昇やユーロ安基調の一服も緩和開始前の水準からはほど遠く、今後も景気回復を後押ししよう。

■ユーロ圏：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■2015年1-3月期の実質GDP成長率（前期比、%）



出所：Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

時期	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
13/4-6月期	2.8	1.4	(0.5)	0.5	0.5	2.7	(▲0.4)	(0.9)	7.1	5.4
13/7-9月期	1.2	0.7	(2.0)	0.6	0.7	2.6	(1.0)	(▲1.3)	2.5	6.1
13/10-12月期	2.1	1.1	(0.2)	0.6	0.2	2.0	(▲0.6)	0.9	3.1	1.0
14/1-3月期	2.3	1.1	(1.3)	0.9	0.9	1.7	(0.3)	▲0.2	1.7	2.3
14/4-6月期	0.9	0.3	(0.1)	0.9	0.6	▲2.2	(▲0.1)	0.2	5.3	5.3
14/7-9月期	1.8	0.7	(0.8)	2.0	1.0	▲0.0	(▲0.5)	▲0.1	6.1	6.9
14/10-12月期	2.0	1.3	(0.5)	1.7	0.7	1.7	(▲0.9)	0.9	3.4	1.5
15/1-3月期	-	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。